

3 - 参考 2

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」市民の提案の概要（横浜）

1 遺伝子組換え食品の安全性

（問題点）安全性試験や消費者の不安に関して

（提案）実質的同等性の概念による比較だけでなく、遺伝子組換え体そのものを検体とする安全性試験（長期間）により確認することを望む。また、アレルギー性については高齢者や幼児等さまざまなケースを想定した試験も含め、さらなる検討が必要。消費者が安全性を容易に判断できるように、正しくわかりやすい情報開示・提供を行うことを企業・行政・専門家の役割として早急に確立すべき。

2 遺伝子組換え農作物が環境に及ぼす影響

（問題点）環境・生態系への影響に関して

（提案）環境や生態系に与える影響については、開発責任者もしくは公的機関等により、長期にわたる観察と確認を行う必要。生態系への影響を最小限に止めるために、作付けの時に、近縁種や雑草などと交配しないための方策が必要。

3 遺伝子組換え農作物が与える社会的・経済的影響

（問題点）日本及び世界の農業政策における組換え技術の位置付けと今後の開発の方向性

（提案）「食と農」について生産者と消費者が共同で考え、日本の自給率をどうするのかという戦略のもとに、取り組むべき（組換えイネの導入については慎重に検討）。日本・韓国・中国を主とする東アジア諸国と、「食料」供給における共通理解に基づく生産分業、開発投資、分配・流通を目指す農業政策を探る。開発に要する資本を公的な一定の機関にプールし、その成果をあらゆる国で自由に活用できる共有財産となるような仕組み作りを検討すべき。どの分野に遺伝子組換え技術を生かしていくのか、オープンに議論（倫理や社会経済的視点からも）すべき。

4 行政に対して

（問題点）新法の制定、検査・表示、情報公開、消費者の施策立案への参画及び教育について

（提案）消費者の健康を守ることを目的に、生産、流通、消費、情報開示まで、すべての食品を対象とする「食品安全法」（仮称）を制定すべき。

消費者も委員に含めた委員会等を設置し、消費者と対等に意見を交換しながら施策につなげる仕組みや、何か問題が起きた場合の対応システムの確立が必要。表示の根拠となる検査技術と検査体制の向上、分別流通の徹底、及び遺伝子組換え農産物を使用している加工食品全てに表示を義務づけ、違反には厳しい罰則を。遺伝子組換え技術・食品については、食と農業・環境問題等にまで理解を深めた上で、正しい選択が出来るよう、教育の現場でこの問題を取り入れていくことが必要である。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」市民の提案の概要（仙台）

1 世界の食料問題について

（問題点）人命にかかわるものについて、経済性が優先され、また特定企業による種子や食料の支配が懸念される。先進国が穀物を浪費している。

（提案） 特定の企業による種子や食料の独占は認められない。

生命にかかわる食料・医薬品などは営利や特許の対象にすべきではない。

地球全体の農業を考えた時、遺伝子組換え農作物が経済的に弱い文化的農業、自給自足的小規模農業のほとんどを駆逐する恐れがある。

2 食料・農業について

（問題点）自給率が低下してる日本農業は危機的。日本で遺伝子組換え農作物を生産しても海外農産物に太刀打ちできない。

（提案） 遺伝子組換え農産物の推進よりも、飼料を含めた自給率向上のための施策、消費者の意識変革が必要。また、より一層の技術向上にむけた努力が必要（遺伝子組換え技術も含めて）。

3 環境について

（問題点）生物多様性の視点から問題である。環境に対するリスクはまだまだ不安があり、グローバルな視点で考えるべき。

（提案） 開発段階から徹底したリスク管理を行い、重要性と有用性、安全性をきちんと判断してから許可すべきであり、また検証には時間をかけるべき。
リスク情報の公開・共有化を行なう必要がある。

4 食品としての安全性について

（問題点）長期・慢性毒性、抗生物質耐性・アレルギー等身体への影響に不安。企業の情報だけによる確認は不十分。問題が発生しても立証不可能。

（提案） 国際基準も必要だが、生命にかかわるものについては経費や時間をかけても、より厳しい国内の安全基準づくりが必要。

5 情報について

（問題点）コンセンサスを得た上で進めるべき。表示（5%混入も含め）も不明確。

（提案） 遺伝子組換え技術に由来するものを使用したものについては、加工後残留していてもすべて表示すべき（わかりやすい表示で）。

メリット・デメリット及びリスク情報の公開を（わかりやすく入手しやすい方法で遺伝子組換え農作物の混入率をEU（1%）なみに厳しくすべき。

6 教育について

（問題点）食糧問題や農業の重要性に関する教育が不足している。

（提案） 学校現場において、農業にふれさせる場面を増やす等、遺伝子組換え農作物も含めて、食の情報・大切さに関する教育を進めるべき。